

八重垣神社祇園祭フォトコンテスト 入賞・入選作品講評

◆全体講評

初めてのフォトコンテストにもかかわらず多くの方が応募され、両部門で計138点と、優秀な作品がたくさん集まりました。水掛け祭りの威勢の良い作品が多く寄せられました。この祭りのひとつの特徴である女神輿の作品が少なかったのは残念です。

ピントが甘い作品は、作品に力がありません。作者の思いが伝わりませんので気をつけていただきたい。良い画面なのにピントが甘く惜しい作品が多くありました。最近のカメラはISO感度が高くても画像が荒れません。水掛けの表情は高速シャッタースピードで撮りますのでISO感度を高くして、おおいに利用して手振れを防ぐ意味と、水掛け祭りの水の表情を逆光線や斜光線を使いながら光を感じさせるように写していくようにすることでデジタルカメラの良さが出てきます。光の方向と、どの場所で写すのがこの祭りの良さを引き出すことができるか、考えて写すように心掛けたいことのひとつです。この祭りをよく知って写していくことが良い作品づくりにつながってまいります。

◆入賞作品評

一般部門

最優秀賞「はづかしいよ」吉井 正勝 様

初めて祭りに参加されたお子さんでしょうか？ 扇で顔を隠しながらも楽しさが扇の間から見える目で感じとれます。お母さんの豊かな表情から子供と参加している楽しさも伝わる作品です。良いタイミングで写されました。カメラマンの姿勢としてよし撮るぞ！というのではなく自然体でカメラを向けて気負わずに写し撮っている感じが伝わってまいります。味わいと品格のある作品です。



優秀賞「よ〜い ヨイヤサ！」嶋田 弘 様

神輿を二基入れながら、水掛け祭りの熱気が伝わってきます。やや高い位置から写したこと、望遠レンズによる圧縮効果が出て祭りの雰囲気と熱気がむんむんと伝わってきます。神輿を持ち上げた瞬間でもあり、良いタイミングで写し撮りました。作者が写そうとした意図が伝わった作品かと思います。もう少し水掛けの水の量が多くある瞬間を写



し撮ることが出来ると祭りの特徴がより出て効果的に見せることにつながってきたでしょう。また少しカメラを左に振って右側を少なくなるように、二基の神輿が中心近くに、よりなりますがより盛り上がった作品につなげることが出来たようです。

優秀賞「真夏の祭典」三十尾 裕之 様

望遠レンズ効果をうまく使いました。そのために画面に迫力と力強さを感じさせながら祭りの雰囲気をよく伝える作品にしました。かなり絞りも絞ったにもかかわらず高速シャッタースピードで写し撮ったことで手前の人物から神輿までシャープに写すことが出来ました。やや右側の水の表情がもう一つです。より高速シャッタースピードで撮りたかったところです。ただ神輿も良く見える角度から写し撮ったことが作品を効果的に見せることにつながられました。盛り上がった水かけ祭りの雰囲気が良く伝わっています。



優秀賞「夜の水かけ」磯部 博之 様

暗い中に浮かび上がった神輿と、夜にも関わらず高速シャッタースピードで、水掛けの姿を浮かび上がらせた作品にしました。色合いも美しく印象的な作品です。右側に写った肩車された子供の姿を入れたことで、作品にぐっと物語を感じさせる作品につなげました。子供が入らないとやや綺麗な夜の水掛け神輿になってきます。良い作品には物語性が感じさせることが大事なことです。長く、飽きないで作品を見ることが出来ます。脇役ポイントをよく知って写された作品です。



優秀賞「喜こぶミコシ」宮内 ふぢ子 様

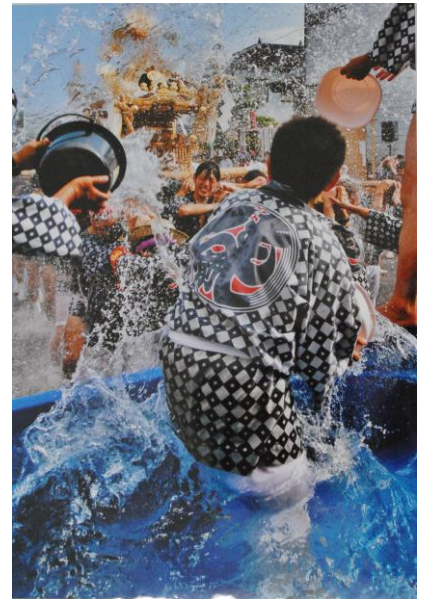
いっせいに神輿にかけられる水の表情を逆光線で美しく、迫力感を待たせて写し撮ることが出来ました。写真はいかに光を読んで写すかで作品の印象が大きく変わります。神輿が傾いた瞬間でもあり喜んで清められているようでもあり、良いタイミングで写し撮るこ



とが出来ました。水掛け祭りをまた違った視点で写し撮ることが出来た作品です。逆光線による美しさが良く表現されました。神輿をやや大きく入れたことで神輿の露出が潰れずに済みました。神輿が小さく写るとよりシルエットになってしまうところでした。

優秀賞「水踊る」沼田 洋 様

この祭りを何回も写されているベテランカメラマンでしょう。この祭りの特徴である水掛けを、視点を変えて、思い切って水をかける人達の裏側から高速シャッターで、広角レンズを駆使しながら、画面に勢いを感じさせて写し撮りました。画面の真ん中にいる女性の表情も良く、大きな効果を上げています。また右上や左側にタライも入ったことも祭りの雰囲気盛り上げた作品につながりました。画面の脇役を上手に入れて写された作品でもあります。



入選「ふるさとをゆく」平山 富治 様

神輿を取り囲むように進む光景に気持ちを込めて静かにカメラを向けて、写し撮っている感じが伝わってまいります。これから迎える水掛け前の静かさのようにも見えます。作品としての強さや、動きを感じさせる作品とは違った視点で写し撮ることも撮影のカットとしても大事な要素につながります。写真は写した瞬間から過去になります。丁寧に写している姿勢が感じられる作品にしています。



入選「連合渡御」君塚 義美 様

手前の神輿にピントを合わせ、望遠レンズで写したことで賑やかさと迫力感を引き出すようにされました。手前側にいろんな表情をした人達がいることでそれぞれの人物の表情に祭りの雰囲気があり、人物の表情が伝わってよかったです。でも背景のほうにまでピントが来ておりません。広角レンズで絞りを絞って、神輿がより近づいたところで写すと神輿が大きく、背景までシャープになり、全体から祭りの雰囲気がより出てきたでしょう。望遠レンズでは



ポイントを絞って写し撮ることが大事です。

入選「神社神輿還御」伊藤 徹威 様

大きな神社神輿の背景に、神輿を担ぐ人達の表情豊かな瞬間を写し撮った印象的な作品です。手前の人差し指を上げながら神輿を担いでいる人の表情は画面を強く印象づけることが出来ました。神輿と人物とがやや左に行き過ぎておりより左側にポイントを絞って、何を写したいかが伝わる画面にしても良かったようです。より祭りの迫力と賑やかさ、作品としての強さが感じられるようになったでしょう。観光写真作品においても何を写したいかが大事になります。



入選「楽しや女祭」三好 尚武 様

思い切って、祭りに参加して楽しくてしょうがないという女性の表情をアップで写し撮りました。作者の狙いが良く伝わってきます。良い瞬間を写し撮りました。人物のスナップ写真は顔の表情が何よりも大事です。人物撮影では目にピントが来ることが大事です。生き生きとした作品につながるからです。目にキャッチライトが入るともっと元気な、生き生きとした写真につながります。少しキャッチライトが入っていますがよりキャッチライトを入れて写すには日中シンクロを弱くして焚くことも考えてみます。



入選「祭りのよろこび」嶋田 徳寿 様

子供達が神輿を担ぎ、水を掛けられた瞬間を逆光線で写し撮った作品です。光を強く感じさせることが出来ました。作品づくりではいかに光を使うことが出来るかで作品の印象が大きく違ってまいります。子供達の豊かな表情と影を利用し、立体的に見せることが出来た作品です。画面から情感を感じさせることが出来た作品です。もう少し ISO 感度を上げて速いシャ



ッタースピードで写し撮り、水の表情を美しく撮られると良かったでしょう。

入選「それ水掛けだ〜」梅澤 秀年 様

神輿を持ち上げた瞬間をややローアングルで写し撮った作品です。水もたくさん掛けられた瞬間でもあり、バランスの良い画面にした印象的な作品です。大人の中に混じって祭りに参加している少年と左にいる鉢巻き姿の男性が作品を効果的に見せる、脇役としての働きをしております。スナップ写真でも脇役の存在は大事です。同じようなシーンでも、違った視点でも写すことが出来る作者の力量を感じます。



入選「あんりゃあどした」坂尾 正純 様

神輿を担ぐ女性たちの表情がいいです。楽しく神輿を担いでいる姿がよく伝わってまいります。女神輿がこの祭りのひとつの特徴でもありその特徴を引き出しています。また神輿を取り囲むように応援している人達の表情もいいです。市民一体となって祭を行っている作品につなげてもあります。女性たちの元気さを感じさせる作品でもあります。



入選「今日は大役」佐藤 瑞代 様

お参りが終わってほっとしている姿でしょうか？記念写真を撮り終わり、もう一度、真ん中の子供はお参りをしている光景のようです。お祭りに参加している姿を素直な表情を写し撮ったところにこの作品の良いところがあります。自然さが感じられます。背景にお供え物も写しだされ提灯と共に祭りの雰囲気を引き出すように画面を作っています。

子供にしても人物の一番豊かな表情を写し撮るには視線で写すのが良いとされます。立って写しています。話しかけながら低くなって、視線で写していくともっと豊かな表情を写し



撮ることにつながったように感じます。

入選「匠瑳を彩る夏の華」竹尾 喜久夫 様

10年ぶりに行われた女子達の稚児行列の姿を素直に写し撮られました。祭りの一端であるこの独特の衣装を写し撮りました。祭りにしても何かの行事を写す場合にはその行事の特徴を写し撮ることが撮影のポイントになります。やや斜光線で写していることで顔の部分が暗くなってしまいました。光の方向も考えて写していく必要があります。



入選「水掛け最高潮」木村 茂男 様

水掛け祭りの雰囲気良く伝わる作品です。良い瞬間を写し撮りました。やや高い位置から写したことで神輿を担ぐ人達の全体像を写し撮ることになり、また水掛け祭りの状態を効果的に見せる作品につながっています。撮影するに当たり何をどう写したいのか自分の狙いを決めてから写していくことで撮影がやり易くなり、良い作品につながることが多いです。どの被写体にしてもその特徴を知り、自分の狙いをはじめから決めて写していく姿勢は大事なことです。この作品から良く伝わってきます。



大人の休日倶楽部部門

大人の休日倶楽部会員が応募できる部門ということで、応募点数が少なかったことは残念です。作品を選ぶのに苦労しました。次回は多くの方の参加をお待ちいたしています。

最優秀賞「紺青爽やか」水島 脩行 様

街全体を入れながら画面全体がシャープになるように写し撮ったことでローカルな祭りの姿をよく伝える作品にしました。ピントが良いことで気持ちのいい作品でもあります。作品としての迫力がや



や感じにくいところがありますが、この光景に感動しながらカメラを向けている感じが作品からよく伝わってまいります。作品づくりでは自然体で、気負いなく写していくことで作者の気持ちが伝わる作品になり、見る者を引き付けることにつながります。

優秀賞「浴びせかける」矢田 満雄 様

女性と男性と一緒に神輿を担いでいる姿を写し撮りました。ちょうど水をかけた瞬間でもあり水が踊るように感じられます。水が神輿に掛けられた瞬間でもあり、また神輿が見える角度で写していることも悪くありません。神輿がもう少し進み、神輿の姿がより大きく人物の表情が豊かなところが捉えられるとより迫力のある作品につながったと思われまます。やや右側に気を取られてしまったように感じます。何を写したいかがより伝わるのが大事になります。



◆審査委員長プロフィール

氏名：大坪信二

略歴：1944年山梨県生まれ。

1962年日本光学工業株式会社（現(株)ニコン）入社。広島、大阪、イギリスに駐在。

2001年ニコンカメラ販売(株)(現(株)ニコンイメージングジャパン)に出向。ニコン塾（現ニコンカレッジ）講師。

2004年定年退職。

現在はフォトカルチャー講師、写真グループ指導、生涯学習センター講師、写真通信添削指導などを務める。

写真ジャンル：ネイチャーフォト、祭りが中心

写真展：2001年7月「テムズ川の休日」ニコンサロン bis、2006年10月「村の絆」ニコンサロン bis ほかグループ展多数



◆入賞作品展示会のご案内

期間：平成25年10月23日（水）～10月31日（木）

平成26年1月8日（水）～1月24日（金）

時間：9時～17時（展示期間中の最終日は16時まで）

会場：八日市場公民館 市民ギャラリー（どちらも）